

## 地元代表協議会における主な協議概要

### <第 1 回協議会（平成 22 年 2 月）>

千城台地区において小・中学校の適正配置を協議していくことを合意し、まずは適正配置の方向性についての課題を洗い出しすることから協議することを確認した。

### <第 6 回協議会（平成 23 年 2 月）>

小学校から統合の必要性を先行して協議することを決定した。

### <第 11 回協議会（平成 24 年 3 月）>

小学校は、小規模校故に授業や行事等の教育活動において様々な支障が出ている。これらを解消・軽減する意味からも適切な学校規模とすることが大切であるという視点から、小学校について、適正配置が必要であることが合意され、次回以降、小学校の統合における組合せ、統合校の位置、時期の協議を行うことが確認された。

### <第 14 回協議会（平成 24 年 10 月）>

会長・副会長から「今後の協議について」の提案があり、「現行学区での統合を検討すること」「統合校の配置は、子どもたちにとってのより良い教育環境の視点を重視すること」「中学校統合については今後の協議に関連して、必要に応じて行うこと」「事務局は随時情報収集し、地元代表協議会に情報提供を行うこと」が確認された。

### <第 16～20 回協議会（平成 25 年 2～8 月）>

小学校の統合シミュレーション 51 通りのうち A・B の 2 案に絞り協議を行ったが、両シミュレーションとも合意に至らなかった。このことから協議の流れを変更し、シミュレーション B の論点の一つになっていた「中学校の統合の必要性」を先行協議し、中学校の方向性を踏まえて再度、小・中学校の統合協議をまとめていくこととした。

### <第 21～23 回協議会（平成 25 年 10 月・26 年 1 月・3 月）>

中学校の適正配置について協議を行い、中学校の統合の必要性については、「両中学校とも適正規模でないため、統合の必要性はあるが、中学校の統合は、強行せず見送ることが妥当である」ことが確認され（第 22 回）、「中学校の統合については、今回の統合は見送る」という方向性を大筋の合意とする協議を行ったが、全会一致の合意には至らなかった。

### <第 24・25 回協議会（平成 26 年 6 月・7 月）>

平成 26 年度児童生徒推計による小・中学校の状況、小学校の統合シミュレーションについて協議を行った。今後の協議を迅速及び具体的に進めるために、次回以降の協議を学校保護者代表と正副会長、事務局による分科会で行い、分科会の意見がまとまった後に全体会で協議していくこととした。

### <第 26・27 回協議会 [学校保護者代表による分科会]（平成 26 年 10 月・11 月）>

各団体の報告を踏まえて、中学校統合に関する協議を行った結果、「現状での統合を見送る。」という方向性に 7 団体中 5 団体の同意が得られたため、統合を賛成する 2 団体が意見を再度集約してくることとなった。

### <第 28・29 回協議会 [全体会][分科会]（平成 27 年 1 月・2 月）>

[28 回：全体会] 中学校統合の是非に関する協議を行った結果、「現状での統合を見送る」ことで全会一致し、学年 2 学級になった場合は、統合について再度協議することを確認した。  
[28 回・29 回分科会] 小学校統合について、現行の中学校区を前提とした小学校の統合を検討する方向性を確認した。さらに、「東小を単独で残す」「北小と西小で統合を検討する」「南小と旭小で統合を検討する」ことを前提に、今後協議を進めていくことが確認された。

### <第 30 回協議会 [全体会]（平成 27 年 7 月）>

第 29 回協議会（分科会）で確認された内容について協議した結果、「東小を単独で残し、北小と西小、南小と旭小をそれぞれ統合する」という方向性が了承され、全体会での合意事項とした。また、小学校統合場所の協議については、学校保護者と学校評議員をメンバーとする分科会で進めることとした。